

## 放課後等デイサービス 自己評価表の公表

(多機能型事業所 a m i a m i)

いつも当事業所の運営にご理解いただき、誠にありがとうございます。

当事業所では、月に1度、職員による事業所の評価を行っています。事業所の改善点を話し合い、問題解決に取り組んでおります。

(令和4年12月～令和5年12月までの評価)

チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	100%			指導訓練室合計 26.5 帖と縁側 3 帖を使用中
② 職員の配置数は適切であるか	100%			利用者 10 名に対し、10 人の職員を配置。
③ 事務所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	100%			施設内、全てをバリアフリー化している
④ 業務改善を図るための P D C A サイクル (目標設定と振り返り) に広く職員が参画しているか	100%			月に 1 度の職員会議を行い、個々の見や運営について話し合っている
⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	100%			アンケートは冬休み前を予定している。個々の保護者から寄せられた意向には対応している
⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	100%			ホームページで自己評価の集計結果を公表している。

⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4%	12%	86%	第三者委員を設けていない
⑧ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	99%		1%	月に一度の職員会議の時に、月の反省、利用児の介助についての注意点、その時期に必要な研修の議題を考え研修を行っている
⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%			半年に1回モニタリングを行い、保護者と利用児の自宅、学校、他事業所等での過ごし方を聞き、支援の見直しを行っている。
⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールをしようしているか。	100%			利用開始時、年度初めに個人情報シートを保護者に記入してもらっている
⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			職員全員で活動を計画している
⑫ 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか。	100%			定期的に新しいおもちゃを制作し、個々の児が楽しく過ごせるように工夫している。
⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、個別行動と集団活動を 適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%			長期休暇中は職員と児を少人数で外出させ、個別活動の充実を図り（コロナ前）、集団活動では全体で目的を達成できるようにしている
⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%			集団活動前には毎回同じ音楽をかけて児に周知させ、終わった後は好きな遊びを通して個人活動の幅を広げている
⑮ 支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	100%			児の担当職員は、支援内容によって、個々の児の注意事項等を話し合い、当日担当職員へ伝え、支援を開始する

⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気が付いた点等を共有しているか。	100%			行った支援の個々の児の反応、支援方法、改善点を職員で話し合っている。(業務日誌を作成)
⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			児の担当職員が支援計画書の目標に対して日々の支援の評価を行っている
⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	100%			半年毎に個の児童の様子を職員間、保護者で話し合い、支援計画書の内容について、支援内容や目標を考えている
⑲ ガイドラインの総則の基本的活動を複数組み合わせる支援を行っているか。	100%			自立支援や日常生活に当てはめることができる活動を取り入れている
⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	100%			担当者会議前に児の担当職員、主任、児童発達支援管理責任者と話し合い、管理者が参加している。
㉑ 学校との情報共有、(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等) 連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	100%			送迎時間の変更や、児の体調、学校での活動を聞き、体調等に配慮している
㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。	100%			保護者から主治医の連絡先、事業所としての緊急時の搬送先の話をしている(基本的に看護師が対応)医療ケア児については、ケアの方法を保護者に来所してもらい、ケアを行っているところを見せてもらってからの利用としている。

⑳ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%			発達支援事業所を併設している児童発達支援センターの利用児童だった児の情報を共有している
㉑ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	93%	6%	1%	生活介護事業へ移行する場合は、当事業所での支援内容や、過ごし方等を他事業所に情報として提供している。
㉒ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	83%	7%	10%	利用が決まった児について、発達支援センターへ児の様子の見学へ行き、児の体調や支援内容についての助言を受けている
㉓ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	3%	6%	91%	令和6年1月に親子交流会を企画している。 (参加者が少なく中止)
㉔ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	25%	12%	55%	参加している
㉕ 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			送迎時に事業所での児の様子を話したり、自宅での様子を聞いたりしている
㉖ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。	100%			事業所内で行い、児ができるようになったことを保護者へ伝え、日常生活へ取り入れられるようにアドバイスを行っている
㉗ 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			利用の契約時や毎月のお知らせで説明を行っている
㉘ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	100%			自宅で困っていることを聞き、事業所での対応を考え改善できるように支援方法を保護者に伝えている

③② 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	68%	9%	23%	保護者会改正予定（令和6年4・5・6月頃）
③③ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があつて場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			苦情窓口は契約時に話をし、苦情があつたときは管理者から状況説明、改善策を話す
③④ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%			「おたより」として、定期的に発行したり、保護者向けのライングループやホームページにて発信。
③⑤ 個人情報に十分注意しているか。	100%			事業所として知り得た情報は従業員一同、厳重に秘密保持するように指導している
③⑥ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			絵カードや、文字、ボカスイッチ、タイマー等を使い意思の疎通を図っている。保護者や支援学校からの情報を参考にしている。
③⑦ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	5%	7%	88%	令和6年度再開予定
③⑧ 緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	99%		1%	防災時の避難場所は保護者に知らせている。（公民館）
③⑨ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	99%		1%	長期休暇中は非難訓練を行い、職員、児に緊急時の対応を周知させている。（公民館への移動は感染症予防のため省略）
④⑩ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			虐待防止研修会は年に1回行っている。令和6年度、県開催の研修に参加予定

④ どのような場合に身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%			身体拘束を行う児の保護者には了解をもらっている。支援計画書に記載。身体拘束防止委員会を設立。
④② 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			対象児の保護者とはしっかりと打ち合わせをしている。
④③ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	100%			事例があったときには様式へ記載し、職員会議の議題にして職員に認識させている。

改善しなければならない部分を職員同士で話し合い、今後の事業所の運営に繋げていきます。 今後とも、よろしくお願いします。

特定非営利活動法人 a m i a m i  
多機能型事業所 a m i a m i  
理事長・管理者 勝田 美鈴